

# 「令和4年度 幼児教育研修会」報告書

【期日】 令和5年1月20日（金）

【会場】 ロイヤルチェスター佐賀

【主催】 佐賀県保育会

【参加者】 91名（集合 24名 オンライン 67名）

【内容】 研修 12:30～16:30

「子どもの遊びを豊かにする保育環境」

講師山本一成氏（国立大学法人 滋賀大学 教育学部 准教授）



## 研修1 「子どもの遊びを豊かにする保育環境」

講師山本一成氏（国立大学法人 滋賀大学 教育学部 准教授）



### ○第1部 なぜ環境を通した保育なのか

環境との出会いが望ましい未来をつくり出す力の基礎を培う

欲求 × 環境 = 保育の物語・新たな出会い  
(欲求の理解) (環境の構成・再構成)

### 子ども理解と環境構成

- ・子どもが自ら育とうとするのを援助するために、環境を構成・調整するのが「植物モデル」の教育の基本。
- ・ひとりひとりの子どもの理解を深め、その子が次に興味関心をもったり、挑戦したりする環境を構成し、援助する
- ・5領域や10の姿などの視点も活用し、ひとりひとりの発達に沿った保育内容を展開する
- ・子どもとともに環境と出会い、子どもの姿に沿いながら環境を動かしていく

### 《ワーク①》

今まさに自ら育とうとしている

今まさにひとつの壁を乗り越えようとしている

自園の子どもの事例より

## ○第2部 環境の構成と再構成

### ●環境構成とは？

保育者が、保育または保護者支援を目的として、人・自然・者・空間・時間等の環境を意図的に選択し構成する行為

### ●環境の声としての「アフォーダンス（アメリカの心理学者ジェームズ・ギブソンが提唱）」

\*子どもにとっての環境の意味や価値（環境の声）を指す

\*子どもが聴いてる「環境の声」を理解することが環境構成の手がかりになる

### 幼児期の環境構成の視点

- ① 「身体を動かす」を可能にするアフォーダンス
- ② 「静かに過ごせる」を可能にするアフォーダンス
- ③ 「自然に触れる」を可能にするアフォーダンス
- ④ 「造形表現（組み合わせてつくる）」を可能にするアフォーダンス
- ⑤ 「ごっこ遊び」を可能にするアフォーダンス
- ⑥ 「協同的探究」を可能にする環境との出会い



\*乳児期には個々の発達の要求に沿った環境構成が中心となるが、幼児期になると

個々の関心に沿った環境に加えて、「集団の関心」を意識した環境構成が必要になる。

\*環境構成は定番のものだけでなく、「その時の旬のテーマ」を取り込むことが重要になる。

特に幼児期後期の「協同的探究」は、「環境との偶然の出会い」をもとに進展していく。

### 《ワーク②》

1. 静かに過ごしたい子どもが落ち着いて遊ぶことが出来る環境
  2. 砂や水といった可塑性の高い素材を手作りで遊ぶことのできる環境
  3. 子どもが絵画や造形といった表現活動を行いたいと思った時に比較的いつでも実現出来る環境
  4. 昨日やっていた遊びをさらに深めることが出来る環境
  5. 子ども達がお互いの個性を知り、アイデアや発想を交換することが出来る環境
- 自園での環境はどうか？

## ○第3部 遊びの選択肢を増やす環境構成

### 幼児期の遊びの中心＝「想像力」と「構想力」

#### ☆幼児の遊びを生み出す環境構成の基本

- ・幼児の遊びのコーナーは多くても10人以下
- ・製作コーナーを中心に、そのほかのコーナーを3つくらい用意する
- ・コーナー同士が「見る一見られる」の関係になるように配置する
- ・素材や道具は、必ず決まった場所に置く
- ・素材や道具は、必ず整頓されているようにする
- ・素材は多様な種類を、少なめにおいて置く（保育者が様子を見て補充するという行為が重要）
- ・製作コーナーは、イスのあるところと、イスのないところをつくる

☆環境は遊びの資源である

◎環境の声＝アフォーダンス＝遊びの資源⇒遊びに誘う環境を構成する

◎コーナーを配置することで、子どもたちが遊びを選択し、じっくり遊び込める環境をつくる  
(遊びの多島海)

◎ごっこ遊びや構成遊びの想像力・構想力を刺激する素材や道具を工夫する

◎生活体験から生まれる物語を遊ぶ

◎五感を動かせることでこれまで出会っていなかった環境の意味や価値に出会うことができる

◎保育者も好奇心をもって、周りの環境を改めて見つめてみる

### 《ワーク③》

園外あるいは近隣で五感を通じた活動が出来ている環境を思い出してみて、まだ十分に活用できていないけれど、五感を働かせてみたら面白そうな環境をリストアップしてみよう

## ○第4部 偶然の出会いを生かした探求

### ◎「主体的・対話的で深い学び」

主体的…自らの興味・関心に基づいて意欲的に学ぶ

対話的…子ども同士で協働し意見交換や助け合い、役割分担をしながら学ぶ

深い学び…知識や技術を活用して、創造的・探究的に学ぶ

### ◎協同と探究が生み出す創造的思考

創造的思考を生み出す4つのP

① project (プロジェクト) …活動の背景にあるテーマ

② passion (情熱) …活動のなかで達成したい事や夢中になっている事

③ peers (仲間) …誰とどのような関係で活動しているか

④ play (遊び) …楽しさが継続・発展しているか

### 《ワーク④》

ドキュメンテーションを書いてみる



### 【感想】

日々の教育保育の中で、ひとりひとりの子ども理解を深め、子どもの好奇心（欲求・要求）をキャッチし、興味関心を持ったり、挑戦したりする環境を構成し援助することがとても大切であり、そこが保育者の専門性であり役割であると思います。

子ども達が主体的に対話的に夢中になって遊び、そこからの学びや育ちをしっかり受け止め、その子に必要な環境・ワクワクする環境構成・偶然の出会いを常に考えて、子ども達が、より心動かされる環境の構築を目指していきたいと思います。